

第4学年 道徳科学習指導案

日時 平成29年11月 2日(木) 3校時
児童 4年1組 男12名 女14名 計26名
授業者 中 釜 けい子

- 1 主題名 粘り強くやり抜く【A 希望と勇気、努力と強い意志】
- 2 教材名 「へこたれない」—きせきのりんご—(「みんなのどうとく4年 岩手県版」学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容の「A 主として自分自身に関すること」の「希望と勇気、努力と強い意志」は、「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」である。これは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。

低学年	中学年	高学年	中学校
自分がやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

児童は、自分で目標を設定した段階では、最後までやり抜こうとする気持ちを強くもっている。しかし、ちょっとした失敗であきらめてやめてしまったり、長続きしなかったりすることが多い。そのため、目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや、苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願いや努力しようとする姿について考えを深めていくことが必要であると考え。

(2) 児童について

1学期の道徳「ぼくのへんしん」では、運動が苦手な主人公が自分自身の努力だけでなく、周りの人の励ましがあって目標の実現ができたことを考えた。国語の「動いて、考えて、また動く」では、自分にとって最高のものを実現するためには、「まず動く、そして考える」ことが大切だという筆者の経験から、目標に向かって取り組むことの大切さに気付いた。また、社会「安全なくらしとまちづくり」の学習では、消防署を見学し、安全を守るために、日々体を鍛え訓練に励んでいる姿を見てきた。「吉田新田」の学習では、米を作るために、勘兵衛が中心となり、11年もかけて入り海を田にした学習を行った。

このような学習を通して、努力することは大切なことだとわかっている。しかし、実際は、困難なことがあると自分には無理だと努力し続けることをあきらめる心の弱さが見られる。そこで、自分で立てた目標を達成する過程で、苦しくてあきらめてしまう人間の弱さに共感しながら、目標に向かってひたむきに努力することの大切さを指導したいと考える。

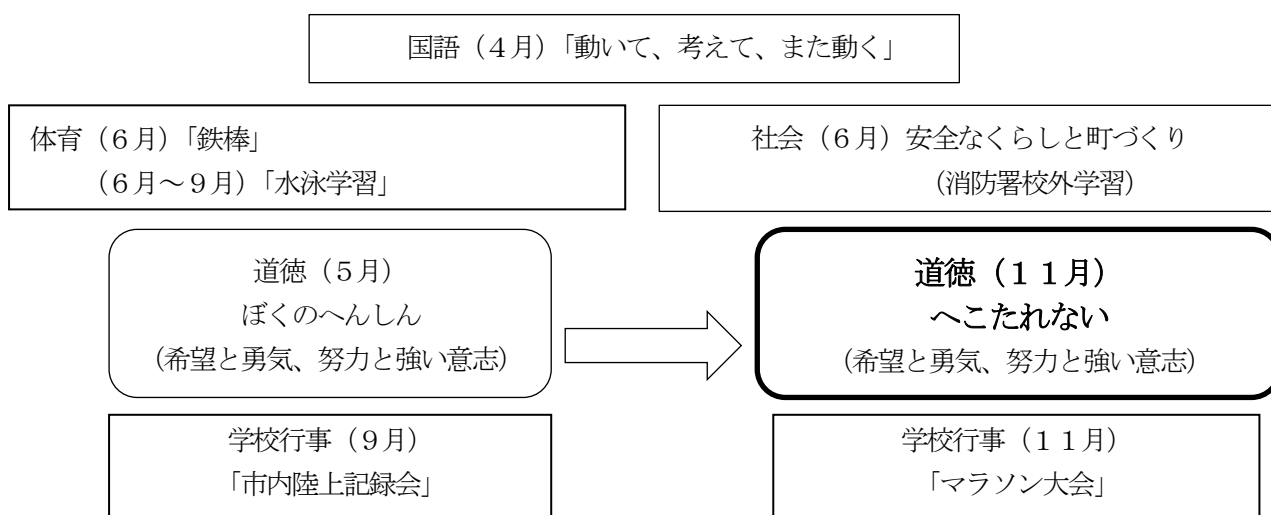
(3) 教材について

本教材は、絶対不可能と言われた自然農法によるりんごづくりに長年挑戦し続け、成功した木村昭則さんの話である。

自然農法で安全でおいしいりんごをつくらうと決心した木村さんだが、害虫が発生したり病気が蔓延したりして実がならず、木までも枯れ始めてしまう。あきらめけて山に向かった木村さんは、どんぐりの木が農薬も肥料も与えられていないのに元気に成長している姿を見つけたことがきっかけとなり、新しいやり方を試し、小さな成功を積み重ね、9年かけて自然農法でのりんごづくりに成功する。

「自然栽培でりんごをつくる」という自分の目標に向かって、苦しくてもあきらめずに粘り強く努力し続けた木村さんの姿は、少しの困難や挫折があると努力することをあきらめてしまう傾向がある本学級の児童にとって効果的な教材であると考える。

4 主な各教科等との関連



5 本時の指導

(1) ねらい

「自然農法でりんごをつくる」という自分の目標に向かって、苦しくてもあきらめずに粘り強く努力し続けた木村さんの生き方を通して、自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもち、最後までやり抜こうとする態度を育てる。

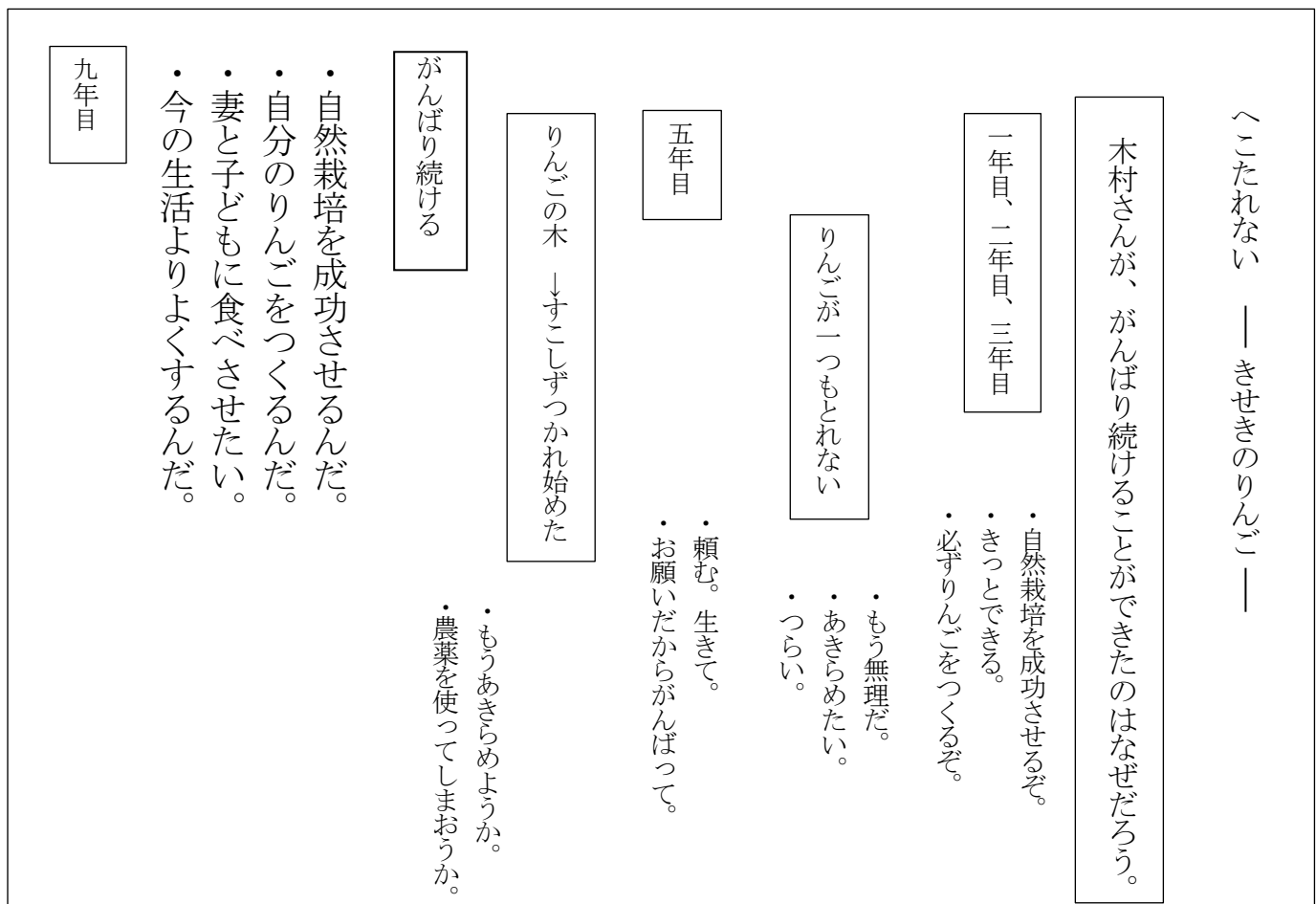
(2) 展開

階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 教材や価値への関心を高め、課題意識をもつ。 ○「うみねこ作文」で書いた、「自分の目標に向かっていて、大変だと思うこと」を数人紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会に向けて休み時間に校庭10周走るのに、心がなまける。 本を30冊以上借りて読むことが目標なのに、遊びたくて本を借りない。 	<ul style="list-style-type: none"> 価値に向けての方向付けをする。

展 開 前 段 30 分	2 教材を基に話し合う。 ○木村さんのすごいところはどこでしょう。	・9年もかかって、自然栽培のりんごをつくったところ。 ・農薬をやらないでりんごをつくったこと。	・写真を提示し、実話であることを紹介する。 ・苦しみながらも、がんばり続けたことに焦点を当てる。
	木村さんが、がんばり続けることができたのはなぜだろう。		
	○1年、2年、3年とりんごが1つもとれない年が続いたときの木村さんはどんな思いだったのでしょうか。	・もう無理だ。 ・あきらめたい。 ・つらい。 ・自然栽培を成功させるぞ。 ・きっとできる。 ・必ずりんごをつくる。	・目標を達成させたいという思いや、苦しくて途中であきらめてしまおうと考える弱さに共感させる。
	○木村さんはどんな思いでりんごの木に話しかけたり励ましたりしたのでしょうか。	・頼む。生きて。 ・お願いだからがんばって。 ・もうあきらめようか。 ・農薬を使ってしまおうか。	・近所の人たちがあきれた顔で見るようになったことにも触れ、つらい思いに共感させる。
◎木村さんが、がんばり続けることができたのはなぜでしょう。	・自然栽培を成功させるんだ。 ・自分のりんごをつくるんだ。 ・妻と子どもに食べさせたい。 ・今の生活よりよくするんだ。	・目標に向かって強い意志をもち、粘り強くやり抜くことのすばらしさを考えさせたい。	
【効果的な中心発問の設定】 ○登場人物の考えや判断、行為の理由を問う（場面発問）		【話合いの工夫】 ○学習形態 ・隣同士や班（3人組） ○学習の進め方 ・友達の考えに対して感想を話す。	
評価の方法 話合いの観察、発言 評価の視点 木村さんの生き方を通して、自分の目標を実現するために大切なことは何かを考えることができたか。			
○一面真っ白なりんごの花を見たとき、自分なら何と言うだろう。	・苦しい思いをしたけど、がんばってよかった。 ・あきらめなくてよかった。 ・これで妻や子どもに食べさせられる。 ・努力はむだではなかった。	・一面真っ白なりんごの花のVTRを見せ、擬似体験させる。 ・苦労が実った時の喜びがうれし涙になったことを感じ取らせたい。	

展開後段 10分	3 道徳的価値の内面的自覚を深める。 ○木村さんの生き方について学んだことを自分の生活と結びつけて書きましょう。	・今まで苦しかったりつらかったりすると、もう嫌になってあきらめていました。へこたれず、努力し続ける自分になりたいです。	・自分の生活をふり返ってうみねこノートに記述させる。
	<p>【自己を見つめる発問の設定】</p> <p>○具体的な価値（内容項目）を入れないで問う</p>		
<p>評価の方法 うみねこノートへの記述</p> <p>評価の視点 自分でやろうと決めた目標に向かって粘り強く努力し、最後までやり抜こうと考えることができたか。</p>			
終末 2分	4 今後の実践につなぐ。 ・映像を見る。		・木村さんの映像（メッセージ）を見る。

(3) 板書計画



(4) 教材分析図

教材名 「へこたれない」一きせきのりんごー (「みんなのどうとく4年 岩手県版」学研)

ねらい 「自然農法でりんごをつくる」という自分の目標に向かって、苦しくてもあきらめずに粘り強く努力し続けた木村さんの生き方を通して、自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもち、最後までやり抜こうとする態度を育てる。

